

科目名	真言密教講読演習G							学期	後期
副題	「感身学正記を読む」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M3-12-216	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

本演習では、鎌倉後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』を読解する。受講者は、担当箇所について関係史料・論文を調査し、資料を作成することで研究能力を練磨する。とくに、本年度は、演習中における質疑・討論を通して、弘安4年(1281)のモンゴル襲来をめぐる叡尊と公武両政権との関係について理解を深める。

なお、授業計画に示す内容は、あくまでも目安に過ぎず、進度や受講生の理解度を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

## 授業の到達目標

鎌倉後期における叡尊の宗教活動を、政治史との関係から理解できるようになる。鎌倉後期における公武両政権の宗教政策を通して、同時期の時代相を考える視座をつちかう。仏教史料の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

## 授業計画

- 『感身学正記』の概要、講義の進め方、当番の割り振り、文献探索の方法
- 『感身学正記』を読む(1)(弘安4年条の夏①)
- 『感身学正記』を読む(2)(弘安4年条の夏②)
- 『感身学正記』を読む(3)(弘安4年条の秋①)
- 『感身学正記』を読む(4)(弘安4年条の秋②)
- 『感身学正記』を読む(5)(弘安4年条の冬①)
- 『感身学正記』を読む(6)(弘安4年条の冬②)
- 『感身学正記』を読む(7)(弘安5年条の春・夏)
- 『感身学正記』を読む(8)(弘安5年条の秋・冬)
- 『感身学正記』を読む(9)(弘安6年条の春)
- 『感身学正記』を読む(10)(弘安6年条の夏)
- 『感身学正記』を読む(11)(弘安6年条の秋)
- 『感身学正記』を読む(12)(弘安6年条の冬)
- 叡尊関係の史跡見学(1)
- 叡尊関係の史跡見学(2)

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した資料を作成できるように努力すること(120分) 報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること(60分)

## テキスト

①『感身学正記』本文のプリント※第1回の講義で配布する。②受講生が作成する報告資料※成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること。③細川涼一『感身学正記』第2巻(平凡社東洋文庫、2020年)※書店で購入。必ず購入して講義に持参すること。

## 参考書・参考資料等

①和島芳男『叡尊・忍性』(吉川弘文館、1959年) ②長谷川誠注解・訳『興正菩薩御教誠聴聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全4冊(西大寺、1990年) ③松尾剛次編『持戒の聖者 叡尊・忍性』(吉川弘文館、2004年) ④相田二郎『蒙古襲来の研究』増補版(吉川弘文館、1982年)

## 学生に対する評価

レポート(50%)、講義中での報告(50%)

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。
- 『感身学正記』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
- 『感身学正記』と叡尊について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。
- 『感身学正記』および叡尊について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

演習において学生が作成した資料の内容については、講義中もしくは講義後にアドバイスをなう。

## その他

本演習の水準は非常に高く、受講生全員に報告義務を課すので、くれぐれも半生可な態度で受講しないこと。参考書や講義で紹介する論著を読んで資料を作成すること。受講者は、企画科目の「古文書解読」を履修していなければ、内容の理解や資料作成がおぼつかないので、同科目を必ず履修しておくこと。なお、本演習では、2回分の時間を史跡見学にあてる予定である(土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する)。